

いしかりのかい
石狩の貝

石狩湾には、石狩市知津狩から小樽市銭函にかけて、長い砂浜海岸が続いています。この海域は日本海を北上する対馬暖流の影響があります。そのため、北海道といえども寒流系の貝だけでなく、寒流域・暖流域の両方に生息する貝も多く見られることが特徴で、全部で63種の貝が確認されています（表）。

これらの中で、ムラサキガイはヨーロッパ原産の外来種で、1920年代に日本に定着したものです。また、トリガイは暖流系種で、これまで分布の北限は房総半島（千葉県）あるいは陸奥湾（青森県）とされていましたが、2005年には函館で、2006年には石狩で多数見つかりました。さらに2007年秋には、暖流系浮遊性巻貝のルリガイが石狩で初めて発見されています。

（志賀健司）

※貝類：軟体動物のうち、体の内外に硬い殻をもつ生物のことで、一部のタコ・イカなども含まれます。

分類	貝（種名）
<small>たばん こつ</small> 多板綱 （ヒザラガイ等）	ヒザラガイ
<small>ふくそく</small> 腹足綱 （巻貝）	エゾアワビ、エゾバイ、エゾボラ（マツブ）、カモガイ、キサゴ、コガモガイ、コシダカガンガラ、サルアワビ、シライトマキバイ、タマガイ、チヂミボラ、ツメタガイ、ネジボラ、ヒメエゾボラ（ツブ）、ヒレガイ、ユキノカサガイ、ヨウラク、ルリガイ
二枚貝綱 （二枚貝）	アカガイ、アサリ、アズマニシキ、アラスジサラガイ、イガイ（ヒル貝）、イソシジミ、ウソシジミ、ウチムラサキ、ウバガイ（ホッキ）、エゾイシカゲガイ、エゾキンチャクガイ、エゾヌノメアサリ、エゾヒバリガイ、オオノガイ、オオミゾガイ、カガミガイ、カモメガイ、キヌマトイガイ、キララガイ、ゴイサギガイ、コケライシカゲガイ、コタマガイ、コベルトフネガイ、サクラガイ、サラガイ（白貝）、シジミ、ソトオリガイ、タマキガイ、チヂミマユイガイ、トリガイ、ナミガイ、ナミマガシワ、ニオガイ、ヌノメアサリ、バカガイ（アオヤギ）、ピノスガイ、ベニサラガイ、ホタテガイ、マガキ、マテガイ、ムラサキガイ（ムール貝）
<small>とうそく</small> 頭足綱 （タコ・イカ）	アオイガイ（カイダコ）、コウイカ、ヒメコウイカ

〔伊藤静孝（未公表データ）、鈴木（2003、2005）より〕

※綱：分類の単位。「ほ乳綱」「鳥綱」など。

- （1）鈴木明彦（2003）北海道石狩湾沿岸における打ち上げ貝類。漂着物学会誌，1，7-12.
- （2）鈴木明彦（2005）北海道望来海岸の打ち上げ貝類とその生態的意義。環境教育研究，8，27-34.
- （3）鈴木明彦・志賀健司（2007）北海道におけるトリガイの緯度分布と地質記録。ちりぼたん，38，116-121.
- （4）鈴木明彦・志賀健司（2008）2007年秋における北海道石狩浜へのルリガイの漂着。ちりぼたん，39，22-24.
- （5）山崎友資・岸本喜樹・川南拓丸・澤野真規・五嶋聖治（2007）函館湾沿岸に打ち上げられたトリガイ。ちりぼたん，37，208-214.